ひだご坊

念じられ照らされて

満洲朝日開拓団（下）

下島智恵子

昭和二十一年もようやく春になって、ここにいてはダメだと琿春の町まで降りてきました。母と妹は親戚に世話になり、父は満洲人の農家へ住み込み、私はその近くの家に預けられました。はじめは言葉でも苦労しましたが、その家ではよくしてもらいました。どうにか日常の言葉もしゃべれるようになってきた八月三十一日、父が日本に帰れるようになったと迎えに来てくれました。

また、他に預けられていた子を、その子の母親と迎えに行くと、その家では子どもがいなかったこともありなかなか返してはくれませんでしたが、母親がガバッと引き取り、二人して走ってきました。下の子も別の家に預けられており引き取りに父親が行きましたが、こんな小さな子を連れて大変だし、日本に帰る前にこの子が死んでしまうかもしれないからと言われ、父親は子どもを引き取らずに名前の入った大工道具を預けてきました。後にその子もその大工道具をたよりに日本に帰ってきました。

父に連れられ琿春に帰ってくると、広場で焚火を焚いて再会を喜んでいる者、家族を亡くし悲しんでいる者、悲喜こもごもでした。我が家は四人、一人もかけることなく元気でしたが、母の実家では九人亡くなり、十一歳の次男だけが残り、私たちと一緒に帰ることになりました。いくつもの峠を越え、野宿をしながら三日間雨の中も歩き、道はぬかるみ、寒さも加わり大変でした。駅に着くと濡れたまま貨物車に乗る。汽車は走り出したら一日止まらなかったり、止まれば一時間以上止まったり、または止まったと思えばすぐ動き出したりと不規則で、トイレに行ったらすぐに動き出し、置いていかれた人もいました。途中鉄道が爆破されているところもあり、川を船で渡り、また無蓋車に乗る。男の人が周りに乗り、荷物や子ども、女の人が中で振り落とされないように乗ってきました。そんな列車で、一緒のおばさんが激しい下痢に襲われコレラの疑いで薬によって死亡させられて、娘さんがおぶって線路の外に置いていかれる。一人でも病人が出たらみんなが帰れなくなるからこういう犠牲者もでました。

行く先々の収容所で検疫があり、しらみの駆除、予防接種、検便。何千人といるところに井戸が二つしかなく、トイレも地面に穴を掘って上に板を渡してあるだけ。食べ物はコウリャンのおかゆか握り飯を一日二回。そのような収容所をいくつか通り過ぎ、ようやく満洲最後のコロ島につき、順番を待ってやっとでアメリカの貨物船に乗船できました。船の中でも一日二回のおかゆだけで、いつもおなかをすかせていました。また、船の中で人が亡くなると、船尾から海に投げ入れられ、やっとここまで来たのにと悲しくなりました。

「日本が見えるぞー」という声に甲板に上がり、大人たちとみんな一緒に喜びました。船は博多に入港して、博多から岐阜行きの汽車に乗り、各務原の宿泊所で二泊して久々野駅に着いて、そこからトラックに乗って朝日村に着くと、小学校の講堂に昼食が用意されていました。一年二か月前の避難から食べることができなかった白いご飯と味噌汁の味は終生忘れることはありません。

残留孤児にもならず、大勢の団員を困難の中でも連れ帰ってくれたみなさんには感謝しかありません。

旧満洲朝日開拓団は終戦時点で約六六〇人でしたが、昭和二十一年十月の引揚者は二六〇人ほど。現地で三三〇人以上の人が亡くなり、六十数名が現地に残留。

今思うことは、戦争は本当になくなればいい、一般人が犠牲になる。一つ心残りは、数か月の間でしたが預けられた現地の家族によくしてもらったのに手紙の一つも出すことがなかった。元気でいることと感謝を伝えられればよかったなと思います。亡くなっていった方々、また中国でお世話になった家族のことを思い、今はただお念仏申すだけです。体が動くうちは圓城寺境内に建てられた物故者の碑に一年に一回は参りたいと思っています。

＜略歴＞
昭和9年12月10日、旧朝日村秋神生まれ。昭和15年9月に満洲に渡り、昭和21年10月日本に帰国。

第44期 真宗公開講座

10月1日（水）於：御坊会館
午後2時～（500円）
講題　報恩講のご和讃を学ぶ－念仏門に入る－
前半：講師
四衢　亮 氏（不遠寺住職）
後半：同朋唱和練習
三島　大遵 氏（真蓮寺住職）

11月2日（日）於：別院本堂
午前10時法要後～（無料）
講題　心と行動
午後２時法要後～
講題　煩悩の身を生きる
講師　太宰　不二夫 氏
（大垣教区 真教寺住職）

高山別院 報恩講 11月1日～3日

報恩講で帰敬式を受式しましょう

報恩講特集ページ

～ 本堂での主な催し ～

◆御伝鈔のタベ feat.曽爾テラワキ

11月1日（土）午後7時
昨年に引き続き、御伝鈔【下巻】が曽爾テラワキ氏の音楽とともに拝読されます。

◆帰敬式

11月2日（日）午後1時
・冥 加 金　13,000円（20歳以下は6,000円）
・申込締切　9月26日（金）
※10月に事前研修がございます。
※詳細のお問合せ、お申込はお手次のお寺まで。

◆子ども報恩講（子ども作品展表彰式）

11月3日（月・祝）午後3時
・子ども作品展（10月19日～11月3日展示）
※３日は式典終了まで
※募集要項はこちら → の QRコードからご覧ください

秋季彼岸会・永代経法要

亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。
ぜひお参りください。

9月20日（土）～26日（金）
午後１時から勤行・法話

20日（土）	窪田　純 氏	（圓徳寺住職）	私の彼岸 仏の悲願
21日（日）	澤邊　恵秀 氏	（誓願寺前住職）	聖人の仰せ
22日（月）	小原　正憲 氏	（專念寺前住職）	「おまかせ」の世界
23日（火）	三島　多聞	（別 院 輪 番）	法蔵菩薩因位時 … 私の出発 …
24日（水）	三木　朋哉 氏	（淨福寺住職）	聞 ―不可思議を思議する―
25日（木）	三島　清圓 氏	（西念寺前住職）	御文と妙好人
26日（金）	小原　宗成 氏	（圓龍寺住職）	浄土往生ということ

発行　真宗大谷派　飛騨御坊真宗教化センター　〒506-0857 高山市鉄砲町6　☎0577-32-0776

家族で語ろう

医療の現場で〝生きること〟を学ぶ⑫

岸上 仁

つながりを確かめる(2)
―出会いの根拠

「青春時代と呼ぶには／あまりに／重すぎるけれど／漆黒とは／光を映す色のことだと」（岩崎 航『点滴ポール 生き抜くという旗印』）詩人・岩崎航さんの詩です。

岩崎さんは、三歳で筋ジストロフィーを発症、その後も進行し、現在は胃瘻と人工呼吸器が欠かせません。しかしそのいのちの現場からの声を五行詩として届けておられます。

「病を含めての自分を生きる」と言い、その置かれた境遇でいかに生きるか、という問いに日々向き合っておられます。

しかし病を受けとめるということは簡単ではありません。Eテレ「生き抜くという旗印 詩人・岩崎航の日々」（二〇一六年四月三十日放送）の中で、岩崎さんは高校生のときには外出もできなくなり、同世代の人の姿を思い、人と自分の境遇を比べてしまったといいます。そして「社会から取り残されているような感じ」と、疎外感を語られました。そして「この病気の体をもったまま生きていても将来はない、希望はないと思い込んでしまった」と、一度は死を決意されたのでした。

仏教の問題領域として「老病死の苦悩」の内実を確かめたように、岩崎さんの苦悩は、ただ病の苦悩のみならず、「生きる意味を失う苦悩」に直面されていたと言えます。しかしそれだけではありません。「社会から取り残されている」と。これは社会の価値観が岩崎さんを追い詰めたと言えます。障害をもって生きるということをマイナスとしか見られない社会、役に立つか立たないかでしかいのちを見られない社会が、人を行き詰まらせるということがあるのではないでしょうか。病そのものの苦悩、生きる意味を失う苦悩、そして社会の価値観に追い詰められる苦悩、そんな三重苦の中におられたのです。

そういう意味で、「人とのつながり」ということは良い意味で語られることが多いですが、その人が「生きたい」と思う、その意欲を妨げるつながりもまたあるのです。

あるとき病棟で、寝たきりの方のことが話題になり、ある看護師が「あんなふうになって生きたくない」と言いました。私たちは時にそういう思いを抱くこともあるでしょう。しかしその中には、いのちに優劣をつける心が潜んでいるのではないでしょうか。先の看護師のような思いをもつ人ばかりの病院では、障害を抱えて生きることが後ろめたくなるかもしれません。私たちは気づかないうちに、「生きたい」と思う、その意欲を妨げるつながりに加担していないでしょうか。そういう心で岩崎さんに出会っても、「寝たきりになった人」としか出会えないでしょう。

しかし、そうではない出会いをされた一人の高校生がおられました。高校の授業で岩崎さんのことを知り、文集に文章を寄せています（高校一年生N.T.さん「生きてやろう」小松大谷高等学校『預流』第三六号）。その中で、「私も死のうと思ったことがありました」と告白され、岩崎さんの詩は「私の思いそのものを表している」と受け止められました。そして、「岩崎さんに出会えたことは私にとって新たなスタートラインとなりそうです」と締めくくっておられます。岩崎さんに、「自分の苦悩を知る人」として出会ったのです。そして、その苦悩を乗りこえ、病を含めての自分を生きようとする姿から、「自分自身を生きてほしい」という願いを受け取られたのです。自分の思いでは自分の関心の内のことにしか出会えません。自分の関心の外側に、ひとすじの道を歩む姿に出会うということが、苦悩の中を生きる力になったのです。

別院定例法座

午後1時から

3日 三日のご坊

9月 講師 澤邊 恵亮氏（誓願寺住職）
講題「安楽浄土にいたるひと」

10月 講師 小原 正寛氏（專念寺住職）
講題「えらばず、きらわず、見捨てず」

28日 親鸞聖人ご命日法座

9月 講師 小倉 輝穂氏（圓城寺住職）
講題「念仏申さんと思い立つ こころのおきるとき」

10月 講師 中川 唯真氏（岐阜高山教区駐在教導）
講題「報恩の候」

ひだご坊 一口法話

URL：https://hidagobo.jp/sermon/

9月1日から10月31日の期間は下記の方々の法話を随時掲載してまいります。

・伊達 俊幸氏（稱讃寺住職）
・帰雲 真智氏（還來寺住職）
・白川 明子氏（願生寺住職）
・澤邊 都氏（誓願寺坊守）

大谷婦人会 定例法座

9月11日（木）
講師
三島多聞 別院輪番

10月11日（土）
講師
三島多聞 別院輪番

いずれも午後1時から

秋のお彼岸に墓石展示会を開催します
納得価格でご奉仕します。ぜひご来店ください。 詳細は新聞折込チラシで！
お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい 各種石工事
石のことなら ご相談・お見積り無料!!
株式会社 奥田石材 OKUDA
☎0577-33-9601［本社］高山市新宮町2498-1
☎0577-32-1483［事務所・展示場］高山市国府町上広瀬137-1

お仏壇

お念珠フェア 30%引き
仏壇工芸 ほりお
高山市三福寺町369-7
TEL0577-33-6686
お彼岸セール開催中
決算につきお仏壇最大30%引き！
LINE登録でお得なクーポンがもらえます

帰敬式受式済みの方へ
法名紙専用額
法名紙を入れて掛ける・置くことのできる額を制作いたしました。
受注生産につき9月30日までにお申し込みください。
金額 2,500円
お申し込み 電話0577-32-0776

保険タイム
〒506-0059 高山市下林町916-1
※ひだしん西高校前支店となり
TEL 0577-35-1005

9月23日まで 決算SALE開催中
お仏壇最大73%OFF
INORI PLACE 工匠館
桐生町2-105 0577-35-3038

ブックス・アイオー
宗教関連書は二階売り場
ゆっくりお過ごしください。
TEL〇五七七-三四-七六六八

慈愛・共なる灯り
高山電気工事株式会社

自主出版 あなたの人生を一冊の本にまとめませんか？
山都印刷株式会社
高山市西之一色町二丁目九〇-八
TEL〇五七七-三二-一四九五

久寿玉 KUSUDAMA
くすだま
平瀬酒造店
TEL 34-0010

あなたの本、作ります。
自分史、作品集など
高山市桐生町7-150-3
有限会社 リブロ
TEL 0577-35-0350
E-mail：info@libro-ops.net

お墓の新設 修繕
お墓の修繕や移転、クリーニング等お墓の悩み解決します。
高山墓石店
☎090-7677-4883
〒506-0814 高山市滝町1362
https://www.takayamaboseki.com/